



これがホタルの光です

5月20日撮影

## 今年も「ホタル」飛んでました。

私が住んでいる大竹市立戸地区の水路では、毎年5月中旬から下旬にかけてゲンジボタルを見ることができます。以前「大竹ホタルを育てる会」に少しばかり関わったこともあり、この水路でホタルの舞を見るのが楽しみとなっています。丁度、時折友人と一杯やるお好み焼き屋さんの近くなので、飲んだ後、歩いて帰る途中の暗闇のホタルはとても幻想的です。しかも、今年は、自宅近くの田んぼ脇の水路でもホタルが舞っているのを確認でき、嬉しくなりました。

ホタルが舞う我が町っていいですね！  
皆さんの近くでホタルは飛んでいませんか？(啓)

## \*\*イベント案内\*\*

### ① 夏の大竹店

日程：7月29日(金)・30日(土)

リニューアルした大竹店に遊びに来ていただくイベントです

詳しくは、同封のご案内をご覧ください。

**この通信をお送りしたお客様だけの特典！**

網戸お持ちいただきますと“1枚500円”で張り替えます。

同封の引換券をお忘れなく！！

お待ち  
してます！



西村大竹店店長

たくさんのご来場有難うございました！



6月18日廿日市店手打ちそばに並ぶお客様

大竹店リニューアルイベント5月27日・28日そして廿日市店10周年イベント6月18日・19日と続けてイベントを行いました。本当にたくさんのお客様にお越しいただき有難うございました。紙面からですが、深く感謝申し上げます。廿日市店のイベントでは、大竹のイベントに続いて宮園そば打ち同好会の皆様にご協力いただき、地元では大変知られた同好会ですので、美味しいそばを食べに地元の皆様がたくさんお越しいただき、左の写真のように列ができるほどでした。何と、廿日市店は二日間で120組200名ものお客様が来られ、10年と言う年月の重みを改めて実感した次第です。これからも、皆様に喜ばれるイベントを行いますので、お気がるにお越しください。(啓)

「住いの困った」は ゲイナンハウス 大竹店・廿日市店共に

フリーダイヤル0120-505-375 URL:<http://www.geinan-house.co.jp/>

最後までお読みいただき有難うございました、次回は9月の予定です。(啓)

\*尚、この「住いる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。



熊本地震より

今この原稿を書いているのは6月末頃ですが、今年は本当に雨が多く九州や福山などでも被害が出ているようです。私どもにも雨が多いためか、雨漏れや雨樋の不具合などの依頼も例年よりも多くいただいております。この通信を読んでいる頃には梅雨が上がってほしいのですが…。雨での被害がこれ以上でないことを祈るばかりです。

さて、上の写真は熊本の地震で倒壊した住宅です。先日、業界関連で「熊本地震調査報告会」が大阪であり、聞いて参りました。報道等で聞いてはありましたが、最新の建築基準法で建てられた建物が倒壊している写真は大変ショッキングで、何を基準にして安全な住まいを作ればよいのか不安に駆られるほどでした。ただ今回の熊本地震は28時間以内に震度7が2回、震度6が1回も発生している非常に稀な地震だったようです。倒壊した多くの建物が、最初の地震では倒壊に至らなかったが、その後の地震によって倒壊した例が多かったと報告されていました。細かくは、裏面の特集に記載しておりますので、そちらをお読みいただければと思いますが、いずれにしてもこれまでの基準の1.5倍程度にしなくては安心できないのではと痛感しています。

本社の新社屋ができて早いもので2カ月が経ちます。地元の集まりなどで、たくさんの方々から「会社きれいになったね！」「看板も今風で、お洒落になったね！」などとお褒めの言葉をいただき大変嬉しく思っております。もう一つ嬉しいことは、改装後”飛び込みのお客様”が増えてきたことです。これまで全くお付き合いの無かったお客様が、住まいの事で色んなご相談に来ていただくようになりました。これまで、地域の方には知っていたいただいていると思っていたのは、全くもって勝手な思い込みであったことが分かりました。これまで以上に、ゲイナンハウスの良い所をしっかりとアピールして行かなくてはと反省です。(啓)



河野



## シロアリ注意！ 最近のシロアリ情報



現場で河野君が撮影したイエシロアリ

毎年、5月に入ると「羽アリが出たんですが……」との電話が入ります。今年も、数件のお電話をいただき、専門業者が床下に入り確認・駆除を行っております。ほとんどのお宅が一般的な「ヤマトシロアリ」なのですが、先日廿日市のお宅で確認されたのが「イエシロアリ」です。この「イエシロアリ」は「ヤマトシロアリ」と比べると少々厄介なシロアリですので、どんなシロアリなのか、ご一読ください。(啓)

### ①なぜイエシロアリは厄介か？

たださえシロアリは厄介なのに、イエシロアリは厄介とはどういう事かと言うと、一般的なヤマトシロアリに比べると、蟻害の程度が大きく、そして進行が早いと言う事。さらに、このシロアリは床付近の湿った部位だけでなく、乾燥した高い所の梁なども食害してしまうからです。しかも、巣の規模が大きく、そのために食害のスピードも速いため、被害が拡大してしまうと言う厄介なシロアリなのです。

### ②ヤマトシロアリとイエシロアリの見分け方(羽アリの状態)

では、見分け方を見てみましょう。シロアリの状態は目につかない場所に潜んでいますので、5～6月に出てくる羽アリの状態での見分け方です。

#### イエシロアリ



体長：7.5mm～9.5mm  
体の色：黄色身を帯びた褐色  
羽の長さ：9.5mm～12.5mm  
飛来時期：6月～7月夕方から夜にかけて

#### ヤマトシロアリ



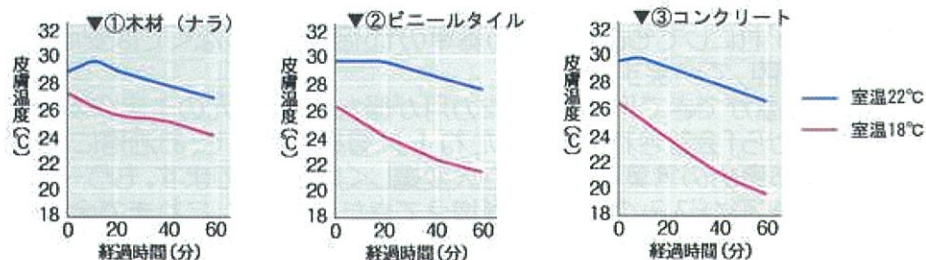
体長：4.5mm～7.5mm  
体の色：黒っぽい  
羽の長さ：7.0mm～7.4mm  
飛来時期：4月～5月昼間に飛ぶ

イエシロアリはヤマトシロアリよりも一回り大きく、性質も攻撃的だそうです。万が一イエシロアリの場合は駆除が急がれますので、羽アリを見たらまずはチェックですね！(啓)

## 木の家を科学する②

今回のテーマは

### 「足を冷やさない木の秘密」



コンクリートの床の上に立っていると体が冷えてしまったり、疲れてしまったと言う経験はありませんか？そこで、上のグラフは室温が22°Cと18°Cの時の①木材(ナラ)②ビニルタイル③コンクリートと言う、異なった床での足の甲での温度低下をグラフにしたものです。室温22°Cではあまり差はありませんが、18°Cでは随分と差があり木材が下がりにくいことが分かります。つまり、木材は熱伝導率が低いので熱が伝わりにくく、熱を奪われず足が冷えないと言う事です。

## 熊本地震 ” 木造住宅被害 ” 調査報告から。

冒頭で書きましたように、熊本地震による木造住宅被害調査報告を聞いて参りました。特に今回の熊本地震では、現行の建築基準法によって建てられた建物が多く倒壊した原因を聞き、これまでの耐震補強のレベルを上げなくては安心できない事を痛感しました。その原因は専門的なこととなりますので、簡単にご説明いたしますが、役所が耐震建物として補助金対象外としている1980年以降の建物でも、キッチリと耐震診断を行い、住まいの安全性を確認し対策を取る事が命を守る事だと、改めて痛感しています。(啓)

### 木造住宅倒壊の原因

①冒頭にも書きましたが「大規模な地震動」が複数回発生(28時間以内に震度7が2回、震度6強が1回)

熊本県益城町における全壊棟数は前震の直後では10棟と報告されているが、本震の後では2,309棟と報告されている。このことから、前震直後には被害も少なかったが、本震により全壊棟数が大幅に増加したと推測できる。

②地震動周期(1～2秒)の継続が時間が長かった

この周期の地震動は、木造住宅に大きな被害を及ぼす。阪神淡路の震災(最大震度7)でもこの1～2秒における加速度応答が大きく、木造住宅の被害が大きかった。平成20年の岩手・宮城内陸地震(最大深度6強)ではこの地震動周期が小さかったため、震度に比べ建物被害が小さかった。

③被害を受けた建物の地盤が軟弱地盤であった可能性

住宅の被害が多く見られた益城町の地域は河川が近くにあり、軟弱地盤相当であった可能性が指摘されている。軟弱地盤の場合、想定以上の揺れによって耐力が不足し、倒壊に至ったと考えられる。

④設計、施工上の配慮不足

1.柱や壁の上下階での直下率が低い(直下率:上階の壁・柱に、下階の壁・柱が存在する割合)

直下率は建築基準法では規定されていないが、直下率が低い建物が地震を受けた場合、より大きな負担が、床や梁にかかってしまい、倒壊の危険性が増す

2.筋交の向きが偏っている

筋交の向きは、通常異なる向きの筋交が対になるように設計するが、熊本地震の倒壊建物では、向きが偏っている建物が見られた。このような状態では、地震の向きによっては、設計上の耐震性が発揮できず、大きな被害を受ける可能性がある

3.耐震要素が適切に施工されていない

個別の倒壊物件の分析では次のような状況が見られた

- ・筋交端部の金物の取り付け不良
- ・筋交に切欠きがあった(リフォーム現場でも時折見受けます)

これを読むと、熊本地震が大規模な地震が複数回起きると言う、これまでに例が無い地震であり、建物に被害を及ぼす揺れであったことが分かります。しかしながら、熊本は建築基準法による計算でも地震地域係数が0.8～0.9と低く設定されているほど、地震の発生が低いと考えられていました。広島県も0.9ですが、これらのことからこれまで以上に厳しい基準で検討しなければならないことが分かります。(啓)